

会議名	第7回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会（高校生世代）
開催日時	令和6年12月18日（水）18時30分～20時00分
開催場所	港区役所 9階 914会議室及びオンライン（Teams）
委員	<p>（出席者：参集） 都立雪谷高等学校 石橋 哲也 日本女子大学 匿名希望 私立広尾学園高等学校 遠山 夏町</p> <p>（出席者：オンライン） 私立広尾学園高等学校 廣實 真仁</p> <p>（オブザーバー） 公益財団法人児童育成協会健全育成事業部部长 佐野 真一</p> <p>（欠席者） 私立広尾学園高等学校 福田 有佳 私立大妻高等学校 松下 向日葵</p>
事務局	子ども家庭支援部子ども若者支援課 特定非営利活動法人 こども哲学・おとな哲学 アーダコーダ
会議次第	<p><開会></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ひとりで過ごせる居場所の要件や機能について 2 港区立子ども中高生プラザにおける高校生世代の利活用の促進について 3 事務局からの連絡事項
配付資料	<p>資料1 ひとりで過ごせる居場所づくり事業への意見照会について</p> <p>資料2 港区立子ども中高生プラザにおける高校生世代の利活用の促進について</p> <p>資料3 港区立子ども中高生プラザにおける中高生向け周知状況</p> <p>資料4 港区立子ども中高生プラザにおける中高生の利用状況推移</p> <p>参考1 ひとりで過ごせる居場所イメージイラスト</p> <p>参考2 第6回検討委員会資料2「ひとりで過ごせる居場所づくり事業について」</p> <p>参考3 第1回検討委員会資料6-3①「児童館・子ども中高生プラザ等」</p> <p>参考4 第1回検討委員会資料6-3②「活動事例」</p> <p>参考5 第1回検討委員会追加資料2「子ども中高生プラザの配置図」</p> <p>参考6 児童館等利用状況（事業概要抜粋）</p> <p>参考7 広報支援員作成 210302_各 SNS の特徴と違い</p>
会議の結果及び主要な発言	
石橋副委員長代理 ファシリテーター	<p><開会></p> <p>それでは第7回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会を開催する。本日の流れについてファシリテーターに説明をお願いしたい。 （説明）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ひとりで過ごせる居場所づくり事業について

石橋副委員長代理	まず、相談スペースのイメージイラストが出来上がったため、乃村工藝社に説明をお願いしたい。
乃村工藝社	(説明)
石橋副委員長代理	これについて何か意見があればお願いしたい。 また、ここからは私も委員として発言するため、ファシリテーターに進行をお願いしたい。
委員B	部屋が1対1の対面空間であると相談しにくさがある。このイラストではL字型のソファになっていて相談しやすい雰囲気に見える。
委員D	色味も安心感があり落ち着くことが出来そうである。天井の高さも丁度良く感じる。
委員C	窓の大きさも丁度良い。窓が大きすぎると自分が小さく感じてしまう。
事務局	皆さんの扉の色のイメージはいかがか。
委員D	薄い色が良い。真っ白ではなく茶色っぽい板のような色をイメージしている。
委員C	目に優しいため薄い緑色が良い。また、ドアの下の方は20センチ程度のガラスでできていると、中の様子が分かり入りやすく緊張しづらい。
委員B	癒されるため緑が良い。また、開放感があるためドアの下にガラスを付けることには賛成である。
ファシリテーター	開放感があるというのは部屋に入る人と既に入っている人、どちらの目線からの意見か。
委員B	ガラスがないと閉じ込められている感覚があるため、既に入っている人の目線である。透き通っているのではなく、ぼやけているガラスでも良いだろう。
委員D	ぼやけているガラスを付けることには賛成である。封鎖されている空間には緊迫感がある。
ファシリテーター	他になければ次へ進む。
	2 港区立子ども中高生プラザにおける高校生世代の利活用の促進について
ファシリテーター	(資料説明)
ファシリテーター	港区立子ども中高生プラザの情報発信について、今回はオブザーバーとして参加している委員Aに説明をお願いしたい。
委員A	(説明)
ファシリテーター	この話に関して、質問や意見があればお願いしたい。
事務局	麻布子ども中高生プラザでは、ほとんど宣伝していないにも関わらず中高生の延利用人数が多いのはなぜか。
委員A	15年前に実施した調査により、口コミが良い宣伝方法だと分かった。1度の利用ではなく利用者が友人を誘って、再度来てくれるよう力を入れた。
委員C	口コミは大事だと思う。軽音部の友人は先輩から教えてもらった区有施設で練習をしていた。インスタグラムなどのSNSでは詳細な記載がないこともある。
ファシリテーター	委員Cが港区立子ども中高生プラザへ初めて行ったきっかけは何であったのか聞きたい。
委員C	友人が利用していたためである。学校は遊べる場所が限られているし、公園は雨だと使えないデメリットがある。
ファシリテーター	委員Dはいかがか。
委員D	中国に元々居住していたため、言語の問題があり家で過ごすことが多かった。それを見た両親が日本語に触れる機会を与えようと勧めてくれた。
委員A	皆さんにとって、インスタグラムからの情報の信頼度はどの程度か聞きたい。
委員C	詳細な情報が載っていないものであれば、信頼はしにくいだろう。例えば、ダンスのできる部屋の場合は鏡の高さ、部屋のサイズ、音響設備などの情報が欲しい。
委員A	インスタグラム内での口コミについてはいかがか。
委員C	匿名で利用できるため、リアルなことが記載されている。

委員A	委員Dはいかがか。
委員D	自分の場合、先に調べるよりもまず行動する性格であるため、自らの目で見ても判断する。
委員C	投稿の対象が1人向けか集団向けかによるだろう。集団向けの場合、仲間の時間をもらって連れていくことになる。時間を無駄にさせないためにもしっかり調べる。あまり情報がなければ行くこと自体をやめることもある。
委員D	詳細な情報は欲しい。自分が度々利用する赤坂子ども中高生プラザのSNSにはイベントの情報が詳しく記載されていない。
委員A	イベントを目的に施設に来るよりかは、来たら偶然開催されていたため参加するという利用者が多いと感じる。そもそも中高生はイベントに興味があるのだろうか。
委員D	自分は積極的に参加したい。
委員C	小学生の頃は別だが、高校生になると何かしら目的があり施設を利用することが多いため、イベントが開催されていると帰宅してしまうかもしれない。
委員A	広報でターゲットをどの世代に絞るのか難しい。建物について詳細を記載するのは良いと感じた。
委員C	初めて施設へ行く人の中には緊張している人もいるため、最寄りの駅から歩いてルートを紹介する動画があると良いと思う。
ファシリテーター	委員Eは子ども中高生プラザを利用したことはあるか。
委員E	小中学生の頃は利用していた。高輪子ども中高生プラザは小学生の利用者が多い。そのため年齢を重ねるにつれて行きづらくなった。
委員C	イベントについては「参加してください」と広報するよりも「手伝ってください」と先生がボランティア情報を広報した方が興味を持つ子はいそうである。
ファシリテーター	委員Bはいかがか。
委員B	インスタグラムを利用している中高生は多いため、認知度を上げるのに役立つだろう。動画も載せられるため視覚的なアピールになる。
ファシリテーター	インスタグラムの投稿を見て、イベントに参加したことはあるか。
委員B	一度参加したことがある。感想が記載されていることもあるため信頼度がある。
事務局	インスタグラムからはどのように情報を探るか聞きたい。
委員C	キーワード検索を行う。また、グルメ情報などをまとめてくれているアカウントがあるため、それを見て情報を得る。
委員B	一度見ると同じような投稿が出てくる機能があるため、それを利用できそう。
委員C	特定の人にアピールするのではなく、情報をただ投稿しておくのが良さそうである。それを見て興味を持った人が食いつく、釣りのイメージ。
ファシリテーター	委員Bは子ども中高生プラザを利用していないが、そもそも存在を知らなかったのか。それとも知っていた上で利用しなかったのか。
委員B	聞いたことはあったが、ほとんど情報はなかった。
ファシリテーター	もし情報があったら利用していたか。
委員B	おそらく利用しなかっただろう。
ファシリテーター	普段友人と遊ぶ際はどこへ行くのか知りたい。
委員B	近所の公園でサッカーやバスケットボールをする。施設は利用していない。
ファシリテーター	施設の中の体育館でバスケットボールができると広報されていたら利用していたか。
委員B	利用していたかもしれない。
ファシリテーター	情報発信について、どのように行くと良いだろうか。
委員C	紙での知らせが良いと思う。ただし教室に置いてあると普段の生活と同化してしまうため、メールでPDFを貰えると見やすい。
委員E	高校生になって急に施設を利用し始める人は少ないと思うため、まず小中学生へアピールして利用者の土台づくりするべきである。 方法としては自分も紙資料は目を通すため、小中学校で配布するのが良いので

事務局	はないか。 小学生の頃から高校生まで継続利用して利用している人は1割程度である。利用者は年齢を重ねていくにつれ減少していくため、委員Eの言う通り小中学生を利用者として引っ張って行くことができれば有効である。
委員A	利用者をただ待つのではなく、イベントなどのタイミングは重要である。
委員C	春が良いだろう。夏に部活の大会が多いため、前哨戦として参加できる。
委員D	赤坂子ども中高生プラザでは、フェスを開く際に学校へ呼びかけを行い、バンドグループやダンス部を招いている。多くの人が集まるため需要があることを鑑みると、学校との連携が重要である。
ファシリテーター	今までの意見を整理すると、SNSでの周知よりも紙で配布する形で広報した方が効果的ということか。
委員C	紙は形が残るという面が良い。インスタグラムでは情報が多すぎてほとんど見ずに飛ばしてしまうこともある。また、更新されると再度同じ投稿を見ることができないし、検索もしづらい。
委員E	子どもが来るような図書館などの公共施設のお知らせスペースに掲示しておく、また紙を置いておく形なら自分は見ると目を通すだろう。SNSだと検索しないと出てこない。ただしYouTubeなら検索しやすいため有効かもしれない。
委員D	自分は紙よりもインスタグラムの方が良いと思う。紙の場合だと見ずにそのままゴミ箱行きになることが想像できる。 港区立子ども中高生プラザは18歳までの利用ということを考慮すると、10代が多く利用しているインスタグラムでの広報は効果的だろう。検索しなくては情報が出てこないという意見も分かるが、学校に二次元コードを付きの紙を置いておくことや面白い動画をつくって広報する方が話題性という面で良い。
委員C	紙とインスタでは情報が届く層が違うから併用で良いだろう。
委員E	二次元コード付きの紙で広報が良い。インスタグラムで施設をフォローしていると友人などに知られてしまう。施設をフォローすることや施設の投稿に「いいね」をすることは恥ずかしく感じるため、拡散力がなさそう。
委員D	自分は恥ずかしく感じないが、施設は小学生も利用するため幼稚なイメージがあるという気持ちは理解できる。
委員C	イベントの対象を高校生に絞り、港区立子ども中高生プラザの0Bの大学生を呼び、相談会を開催するのはいかがか。
委員E	高校生だけと枠組みを決めるのではなく、手伝ってくれる人を募集する形の方が良いと思う。
委員D	自分としては中高生の利用できる時間が短いと感じる。18時～20時までの2時間しか中高生の専用時間がない。21時まで閉館時間を延ばす、または土日で専用時間を17時～20時までに延ばすと中高生の利用が増えるのではないか。
委員A	それは施設全体ではなく、体育館など一部のエリアでも良いと思うか。
委員D	それでも良いと思う。18時前は小学生が多く、好きなことをできるスペースが少ない。
ファシリテーター	他に意見がなければ、石橋副委員長代理に進行を戻す。
石橋副委員長代理	3 事務局からの連絡事項 事務局に連絡事項をお願いしたい。
事務局	今回は3月に開催する。日程調査票を送付するため、回答をお願いしたい。
石橋副委員長代理	それでは、第7回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会を閉会する。 <閉会>